

ARFANEWS

発行所／スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科浦辺研究室 電話082-257-5405

■代表挨拶

いよいよ、代表を務めて3年目になりました。毎回、理事会では時代に即したスポーツ選手のためのリハビリテーション研究会はどうあるべきかということが議論されています。私たちの研究会はスポーツ現場の声を重要視してきました。スポーツ現場で起こっている様々な問題に研究会としての回答をひとつひとつつくっていかれたらと思っています。時代の変化によって、研究会に求められるものが変化するのは当然です。しかしながら、時代が変わっても不変なものをきちんと押さえておくことも大切だと思います。保険医療制度の中でスポーツ医療やスポーツリハビリテーションの厳しさが日増しに感じられます。しかしながら、これまで培ってきたリハビリテーションの質を落とすわけにはいきません。

日本体育協会公認アスレティックトレーナー(AT)も800名を超えようとしています。ATがどのようなスポーツリハビリテーションを行うのかということもこれからさらに検討を続けていく課題だと思っています。将来、このような仕事に就きたいと考えている学生さんに対して、何が必要であるのかを私たちの責任で示していくことが大切だと考えています。

現在の役員での最終年度ですが、力を合わせて今後の研究会の方向性を導くような1年にしたいものです。本年度の事業でそれを形に表していきたいと思いますので、会員の皆さんにも大いに期待していただきたいと思います。

平成18年4月吉日

代表 浦辺幸夫

■今後の事業案内

平成18年度第1回講習会(愛知)

平成18年度の第1回講習会を名古屋市で開催いたします。

本講習会では日常のスポーツや医療現場で多くみられる足関節捻挫を取り上げ、特に様々な症状により治療に難渋することが多い「足関節捻挫後の慢性症状」をテーマとしました。日頃からスポーツ選手に携わっておられる先生方に評価方法から治療及び対処方法に至るまでをご講演いただきます。また様々な競技種目でスポーツ選手のリハビリテーションに従事しておられる方々をパネラーとして、症例を通じて対処方法を提示していただく内容を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■開催要項

開催日時：平成18年5月14日(日)

9:30～16:00

会場：トライデントスポーツ健康科学専門学校(愛知県名古屋千種区今池1-5-1)

名古屋駅より/JR中央線(約10分)千種駅下車/徒歩3分/地下鉄東山線(約10分)千種駅下車/4番出口より徒歩3分

参加費：会員5,000円(学生会員3,000円)、非会員7,000円(学生5,000円)

定員：200名

申し込み受付：当日受付(予約不要)

テーマ：「足関節捻挫後の慢性症状とその対策」

プログラム：

9:30～受付開始

10:00～11:30

講義1「足関節内反捻挫～バイオメカニクスに基づく診断と治療～」遠山晴一・北海道大学病院スポーツ医学診療科

12:30～13:30

講義2「足関節捻挫の後遺症～治りにくくする要因とその対処方法～」野村亜樹・医療法人社団昇英会はちすばクリニック

13:45～16:00

パネルディスカッション「足関節捻挫のリハビリテーションを考える」パネラー：西田貴之・三菱電機メルコドルフィンズ(バスケットボール)、濱野武彦・トライデントスポーツ健康科学専門学校(ラグビー)、宮村司・浜松医療学院(サッカー)、板倉尚子・日本女子体育大学健康管理センター(バレーボール)、座長：浦辺幸夫・広島大学大学院保健学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

◎問い合わせ先

開催委員長 濱野武彦(トライデントスポーツ健康科学専門学校)

E-mail：sr-nagoya@hotmail.co.jp

第24回研修会開催(東京)

今年度第24回研修会は11月4日・5日の両日に飯田橋レインボービル(東京都)にて開催いたします。

今回は「トレーナー」をテーマとして企画を進めております。また今年度の一般演題では「スポーツ現場に役立つアイデア発表」としてスポーツや臨床の現場で実践している色々なアイデアを募集しご発表いただく予定です。

スポーツ選手に関わる多くの方々有意義な研修会となるよう企画運営をしております。多くの会員の方の参加を運営委員一同心よりお待ちしております。

■開催要項

会期：平成18年11月4日(土)・5日(日)

会場：飯田橋レインボービル(JR飯田橋駅下車徒歩5分)

◎問い合わせ先

第24回研修会長 板倉尚子（日本女子体育大学健康管理センター）

E-mail: itakura@jwcpe.ac.jp

第24回研修会「演題募集」——「一般演題」ならびに「スポーツ現場に役立つアイデア発表」募集

平成18年11月4日（土）・5日（日）の2日間、東京にて第24回研修会が開催されます。本研修会では、例年どおりの一般演題だけでなく、「スポーツや臨床の現場で実践している色々なアイデア」についても発表していただこうと思います。一般演題のような科学性や普遍性といった学術的な内容だけではなく、スポーツや臨床の現場でのちょっとしたアイデアや経験談を話題にいただければと思います。そして、様々な意見交換を交わしていただける場にしていこうと考えています。「学会発表という形式的な発表ではなく、現場で実践している面白いアイデアや経験談を披露したい」という方のための企画ですので、お気軽にご応募下さい。

◎応募資格

研修会における発表資格は、「スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会」の会員、学生会員（以下、「会員」とする）に限定されています。従って、応募の時点で未入会の方については、平成18年7月下旬までに当会への入会手続きをして下さいますようお願い申し上げます。

なお、共同演者については会員である必要はありませんが、当日の発表を筆頭演者以外の方が行う場合には、その発表をする共同演者が会員である必要があります。また、対象者（または患者様）には研究の意図と内容を説明し、了承を得た上で応募して下さい。

◎応募方法

1) 演題名登録

*応募締め切りは、平成18年5月31日（消印有効）とします。

*応募には、氏名、会員番号、連絡

先住所・電話番号、所属、演題名、発表部門（「一般演題発表」もしくは「アイデア発表」のいずれか）、抄録文書指導の希望の有無を下記宛にお知らせ下さい。応募受付後1週間以内に必要書類を送付いたします。

2) 抄録受付

*抄録受付締め切りは、平成18年7月1日（消印有効）とします。

3) 抄録作成には「抄録作成上の注意事項」（演題登録者に後日送付致します）を厳守して下さい。

4) 連絡先については、演者ご本人と確実に連絡がとれる手段（PCメールアドレスなど）をお知らせ下さい。

◎応募期間

*平成18年4月15日より5月31日（消印有効）までの期間とし、e-mailまたはFAXにて受け付けます。

◎応募先および問い合わせ先

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会

第24回研修会学術審査部 伊藤浩充
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7-10-2 神戸大学医学部保健学科

FAX: 078-796-4569

e-mail: hitoh@dolphin.kobe-u.ac.jp

■事業報告

第21回ワークショップ（熊本）開催報告

平成18年2月11日（土）、12日（日）の2日間にわたり、第21回ワークショップを熊本機能病院及び熊本健康・体力づくりセンターにて開催しました。第8回ワークショップが九州で初めて開催されてから、今回熊本では2回目の開催となりました。参加募集締め切り当日まで参加者数の心配をしましたが、九州内を中心に石川、東京、京都、広島からも参加があり予定定員通り30名（会員8名、一般22名）の方々に参加いただきました。スポーツ選手のリハビリテーション分野に興味をお持ちの一般参加が多い状況でした。

今回は「スポーツ選手に対する機能評価とその実際」をテーマとし

ました。スポーツ現場や臨床の場でいかに選手の問題を的確にとらえ対策の糸口を見出していけるか、そのためには、やはり選手の抱えている問題をどれだけの確に評価できるかが大きなポイントになり、外傷や障害予防の対策を含めた展開に結び付けられるよう、各講師の先生方には実技中心の講習をお願いし、講習の中で再現できないような所は豊富な映像を提供していただき参加者の理解を深めていただきました。

1日目は、まず開催委員長の私の方で「スポーツ選手に対する心身のコンディション評価について」と題し、選手のコンディショニングに関わる上では多岐にわたる評価・分析の必要性を講義させていただきました。引き続き、松田 孝幸先生（スポーツコンディショニング・プロモーション・JIN）に「体幹のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際」、平川信洋先生（鶴田整形外科）に「下肢のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際」について実技や映像を交えてポイントを抑えていただきました。

2日目は、日野邦彦先生（帝京大学）に「上肢のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際」、尾崎勝博先生（野崎東病院）に「アライメント評価とその実際」について、前日に引き続き評価のポイントを豊富な経験の中からご教授いただきました。そして最後に、加賀谷善教先生（鹿屋体育大学）に『選手・指導者への評価結果のフィードバックとその活用方法』について、日頃の取り組みをやご経験を盛り込みながら全講義をまとめていただきました。

トリノ冬季オリンピックが開幕し日本選手団の活躍を気にしながら、2日間にわたるプログラムを通し、機能評価について新たな見方や今までの見方をしっかり見直す機会になったことと思います。

最後に、ご多忙の中、資料作成から当日の講義・実技までご尽力いただきました講師の先生方には、心より感謝申し上げます。また、準備・

開催にあたり色々のご指導いただきました日野邦彦副代表及び担当理事の先生方並びに4名の開催委員には大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

第21回ワークショップ（熊本）

開催委員長 東 利雄（熊本機能病院）

第21回ワークショップに参加して

平成18年2月11～12日熊本機能病院にて、第21回ワークショップ、テーマ『スポーツ選手に対する機能評価とその実際』が開催されました。

今回初めてのワークショップに、緊張と大きな期待を抱えて参加させていただきました。

始めに東先生による、講義1『スポーツ選手に対する心身のコンディション評価について』では、身体・精神の両面から、多くの機能的な評価方法をわかりやすく紹介していただきました。またその中から適切な評価項目を選定し、実施することが理学療法士の仕事であるというまさに「根幹」を提示していただきました。続いて松田先生による実技1『体幹のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際』では、体幹のスポーツ外傷の症例提示後、実際に体幹機能を中心とした評価・治療プログラムの立案を受講者同士でさせていただきました。

一日目の最後には、平川先生による『下肢のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際』では、スポーツ現場での問題点を社会的・個体的要因など多方向から説明していただきました。また実際に症例に対して原因分析・身体機能評価・フォーム分析といった評価の流れを提示していただきました。

二日目に入り、日野先生による『上肢のスポーツ外傷に対する機能評価とその実際』では上肢のスポーツ外傷の中でも特に投球動作について、実際に受講者同士でフォーム分析を行い、投球障害の評価について機能的・効率的な投球動作の提示を

していただきました。

続いて尾崎先生による実技4『アライメント評価とその実際』では臨床で行われている、評価・治療の流れを示していただき、特に機能的評価に関しては、それぞれに対して詳細な説明もしていただきました。また受講者同士で歩行分析を行い、問題点とそれに対する機能的な評価を全体に対して、受講者が発表するという形で、私も発表させていただきました。

最終講義となった加賀谷先生による講義2『選手・指導者への評価結果のフィードバックとその活用方法』では鹿屋体育大学でのメディカルチェックとその問題点などの実情を話していただき、フィードバック自体は勿論としてその方法の適切な選択の重要性を提示していただきました。

今回のワークショップではテーマの通り『評価の重要性』、特にスポーツ選手に対しては動作分析が中心となり、その中でより適切な機能評価を選択し、治療することの重要性を各先生方が強調されていました。より臨床に近い形で、他の受講者の方達と一緒に考え、学ばせていただくことができたと思います。

今後も研修会・講習会・ワークショップに参加し、多くの先生方の考え方を学ぶと共によい刺激を受け、知識・技術を習得に努めて自己研鑽に励んでいきたいと思っています。

今回お忙しい中、企画・運営していただいたスタッフの皆様に深く感謝いたします。

京都地域医療学際研究所付属病院
リハビリテーション科 相馬寛人

平成17年度第2回講習会報告

平成17年度第2回講習会は3月5日東京体育館第1会議室にて開催し、58名の方が参加されました。高尾良英先生（藤沢湘南台病院健康スポーツ部）には「トリノオリンピックメディカルレポート」と題してご講演を頂きました。高尾先生はトリノオリンピックに本部医務班として

帯同されており、国際大会における競技現場の様様や選手の状況など、トリノオリンピックの様子を交えてのご講演でした。清家輝文先生（月刊スポーツメディスン編集人）には「スポーツ医学とSportsmedicine」と題してご講演いただきました。清家先生は1979年創刊の『月刊トレーニングジャーナル』、1989年創刊の『Sportsmedicine Quarterly』（現『月刊スポーツメディスン』）の編集に携わられており、スポーツ医学の変遷をジャーナリストの視点からご講演していただき、「Sportsmedicineとはからだから人々のしあわせを考える学問（文化）、あるいは医学・科学・文化から捉える“総合運動学”であると考えている」と述べられました。清家先生は研究会発足時から会運営にお力添えをいただいております、平成16年度まで事務局運営にご協力をいただきました。その労に感謝し研究会より感謝状と記念品を贈呈致しました。

午後のプログラムは膝前十字靭帯損傷をテーマに福林 徹先生（早稲田大学スポーツ科学学術院）に「最新トピックス」、浦辺幸夫先生（広島大学大学院保健学研究科）には「リハビリテーションと予防」についてご講演いただきました。福林先生は手術方法を動画で詳しくご説明され、また最新のリハビリテーションの方法のご紹介があり、最近の前十字靭帯損傷の知見をわかりやすくお話ししていただきました。浦辺先生は膝前十字靭帯損傷手術後のリハビリテーション、またその予防策として神経-筋協調性のトレーニングや筋力強化、筋機能向上を重視されており、膝前十字靭帯損傷の要因となる動作上のリスクを回避するためのリハビリテーションの実際を詳しくご説明いただきました。当日は地方の会員の方々にもご参加いただき、盛況に会を終えることができました。ご講演いただいた講師の先生方、参加者の方、当日運営にご協力下さった運営委員に感謝申し上げます。

開催委員長 板倉尚子

平成17年度第2回講習会に参加して

平成18年3月5日、東京体育館で開催された平成17年度第2回講習会を受講しました。まず、最初に日本オリンピック委員会専任医師高尾良英先生よりトリノオリンピックにおける医学サポート体制についてのご報告をしていただきました。医学サポートの戦略・事前準備・メディカルチェック体制・スタッフ構成など、具体的な取り組みや工夫などについて、貴重な映像を交えながらお話をいただきました。特に今回のスタッフ構成はトレーナーの割合を増やしたことが特徴で、オリンピックのような国際大会ではメディカル、フィットネス、コンディショニングのすべての内容をカバーできるトレーナーが求められているとのことでした。次に、月刊スポーツメディスン編集人の清家輝文先生よりジャーナリストの視点から、「スポーツ医学とSportsMedicine」というテーマで、スポーツ医学の変遷、および清家先生とスポーツ選手のためのリハビリテーション研究会の取り組みについてお話をいただきました。社会の中でのスポーツ医学の存在意義など、普段は病院という環境のなかで働いている私たちにはない独特の視点での指摘およびエールをいただき大変参考になりました。次に早稲田大学スポーツ科学学術院の福林 徹先生より膝前十字靭帯損傷の最新のトピックスについて講義をいただきました。膝前十字靭帯損傷の受傷は膝外反および下腿内旋に大腿四頭筋の筋収縮が関与しているという起序について、様々なデータを元にして講義いただきました。最後に研究会代表浦辺幸夫先生より膝前十字靭帯損傷のリハビリテーションと予防というテーマで、特に現在実践されている、予防に対する取り組みについて、具体的内容を提示していただきました。

今回の講習会では、どの先生の講義からも、スポーツリハビリテーションのフィールドでこれから私たちがどう関わっていけばよいのかと

いう問いかけやエール的な内容が伝わってきて、自分自身のスポーツリハビリテーションへの関わり方を再考したり、モチベーションを高めることができる内容であったと思います。ご講演していただいた先生方、準備していただいたスタッフの方々にこの場を借りて、感謝申し上げます。
埼玉医科大学病院リハビリテーション科 浦川 幸

平成17年度定期総会報告

平成18年3月5日(日)東京体育館で開催された平成17年度第2回講習会に併せて開かれた平成17年度定期総会は、会員335名のうち33名の出席、139名の委任状提出を得て、定数の5分の1以上の出席が確認され成立しました。なおニュース前号に記載したすべての議案および平成17年度会計報告、平成18年度予算案についてすべて承認されました。

■事業予定

平成18年度ワークショップ開催の案内

1. 第22回ワークショップ(静岡)
開催日:平成18年9月9日(土)~10日(日)を予定
開催場所:静岡県富士市を予定
開催委員長:鈴木信幸(渡辺病院リハビリテーション科)
詳細は、今後のニュース・ホームページでご確認下さい。

2. 第23回ワークショップ(鹿児島)
開催予定日:平成19年1月から2月を検討中
開催場所:鹿屋体育大学(鹿児島県)
開催委員長:加賀谷善教(鹿屋体育大学)
詳細は、今後のニュース・ホームページでご確認下さい。

■各部・各委員会からのお知らせ■

平成18年度年会費納入について

平成18年4月1日からの新年度

に際し、平成18年度の年会費の納入を会員の皆様をお願い申し上げます。SR研定款細則第1章第6条により、年会費納入期限は7月31日となっております。納入要項を参照の上、遅延のないようお願い申し上げます。

領収書が必要な場合は、年会費納入後に会員番号、氏名、送付先住所を明記の上、振り込み控えを同封し、下記宛にお送り下さい。折り返し領収書を発行させていただきます。ただし、領収書の宛名は個人名に限らせていただきます。病院名、企業名の連名等はできませんので予めご了承下さい。

年会費未納の方は平成18年度事業には参加できませんのでご注意ください。

■年会費納入要項

年会費額:会員/10,000円

学生会員/5,000円

納入方法:下記の①か②のどちらかの方法で納入をお願いします。

①同封の郵便振替用紙に必ず氏名、連絡先住所、連絡先電話番号を記載し、上記の該当金額を郵便局よりご送金下さい(4月1日以降にお振込み願います)。なお通信欄には何も記載しないで下さい。住所変更等の通信事項のある方は別途ハガキにて下記までお送り下さい。なお、第1回講習会に参加される方は年会費納入の確認のため、振替票控えを当日お持ち下さい。

②第1回講習会(5月14日開催)にて、年会費受付窓口で直接お支払い下さい。

◎問い合わせ先

〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科浦辺研究室内

TEL 082-257-5405

FAX 082-257-5405

E-mail: sporeha@hiroshima-u.ac.jp

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会事務局

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
平成18年度予算案

平成18年1月25日付

一般会計				
勘定項目	平成17年度予算	平成18年度予算	差異(△)	備考
〈収入〉	円	円	円	
年会費 正 会 員	3,200,000	3,200,000	0	10,000円×320名
年会費 学生会員	50,000	25,000	△ 25,000	5,000円×5名
年会費 賛助会員	1,200,000	1,100,000	△ 100,000	50,000円×22口
入会金 新規会員	180,000	150,000	△ 30,000	3,000円×50名
雑収入	1,000	1,000	0	
一般会計収入小計 A	4,631,000	4,476,000	△ 155,000	
一般会計前年度繰越金	1,000,000	800,000	200,000	
一般会計収入合計 B	5,631,000	5,276,000	355,000	

〈支出〉	円	円	円	
通信連絡費	300,000	300,000	0	ニュース発送（4回）、研修会誌発送他 コピーメンテナンス料含む 理事会他 役員事業視察
事務消耗費	200,000	200,000	0	
会議費	800,000	800,000	0	
役員行動費	50,000	100,000	50,000	
人件費	600,000	150,000	△ 450,000	ARFAニュース（4回） 第24回研修会誌作成費
備品費	0	0	0	
備品管理費	50,000	50,000	0	
会報作成費	360,000	360,000	0	
教材資料作成費	200,000	200,000	0	
雑費	21,000	26,000	5,000	
事務委託費	1,800,000	2,000,000	200,000	
J A R 制作費	0	0	0	
H P 設営運営費	250,000	290,000	40,000	
住所録作成積立費	0	0	0	
会誌作成積立費	0	0	0	
S R 基金積立費	0	0	0	
一般会計支出小計 C	4,631,000	4,476,000	△ 155,000	
当期収支差額 A－C	0	0		

事業会計				
勘定項目	平成17年度予算	平成18年度予算	差異(△)	備考
〈収入〉	円	円	円	
事業収入 D	4,890,000	4,500,000	△ 390,000	* 1
事業会計前年度繰越金	390,810	500,000	109,190	
事業会計収入合計 E	5,280,810	5,000,000	△ 280,810	

〈支出〉	円	円	円	
事業支出	4,390,000	4,000,000	△ 390,000	* 1
運営費	250,000	250,000	0	
事業費	150,000	150,000	0	* 1
地方開催対策	50,000	50,000	0	
地方開催対策積立費	50,000	50,000	0	
事業会計支出小計 F	4,890,000	4,500,000	△ 390,000	
当期収支差額 D－F	0	0	0	

* 1：第1・2回講習会、第22・23回ワークショップ、第24回研修会

当期収入合計 A＋D	9,521,000	8,976,000	△ 545,000	
前年度繰越金	1,390,810	800,000	△ 590,810	
当期収入総計	10,911,810	9,776,000	△ 1,135,810	
当期支出合計 C＋F	9,521,000	8,976,000	△ 545,000	
次期繰越金	1,390,810	800,000	△ 590,810	